

下水道技術開発会議におけるこれまでの取組と令和7年度取組方針(案) ※赤文字はR6変更箇所

資料8-2

活動の柱	H28～R6年度の主な取組	左記の検討状況、課題	R7年度取組方針(案)
柱①「技術ニーズの把握と発信」	事業主体の技術的課題・ニーズを把握するため、以下を実施 ・全国アンケート調査(H28,H29,R3) ・個別ヒアリング調査(6力年で合計45団体(R4は6団体)) ・各種会議の議題調査 ・R4の都市ヒアリング調査結果を踏まえた課題解決技術支援ツール(試行版)の改良(R5) ・課題解決技術支援ツール(試行版)の更新・アクセス状況の分析(R6)	・各種会議の議題調査により、主に中核市以上の都市における時宜にかなった技術ニーズについて確認した。 ・R6は文献調査等を踏まえた課題解決技術支援ツール(試行版)の更新やアクセス状況の分析を行った。	【継続実施】各種会議の議題調査 【継続実施】課題解決技術支援ツール(試行版)の改良・更新(必要に応じて操作性の向上、情報の更新等)
柱②「技術シーズの把握と発信」	研究開発主体の技術シーズを把握・蓄積するため、以下を実施 ・B-DASH等の技術提案の募集 ・技術提案内容等を審議の上、ロードマップを改定(H29.2,H29.8,H30.2,R3.2,R4.2,R5.2の6回) ・ロードマップ全体の現状での評価を行い改定(R6.2) ・上下水道科学研究費補助金の公募・採択(R6) ・ロードマップフォローアップ欄の更新(R6)	・R6のB-DASH実証技術を公募し採択した。 ・R7のB-DASH等の技術提案を募集した。 ・R6上下水道科学研究費補助金を創設し、募集・採択した。 ・R4～R6に公表された文献の調査を行い、フォローアップ欄の更新を行った。	【継続実施】B-DASH等の技術提案の募集 【継続実施】引き続き、必要に応じロードマップやフォローアップ欄を改定・更新
	ロードマップへの取組状況を確認するため、以下を実施 ・ロードマップに関連する技術開発状況の文献調査(H30,R1,R5,R6) ・関連企業に対する技術開発状況に関するアンケート調査(R4)		【継続実施】引き続き、技術シーズの把握と発信のための調査を実施
柱③「ニーズとシーズの架け橋」	技術ニーズや技術シーズの有効な意見交換方策を検討するため、以下を実施 ・プロジェクトGAMの活用と産学官連携を検討 ・技術ニーズ、シーズの情報共有のあり方に関する業界団体ヒアリング(R1) ・技術ニーズ、シーズの情報共有のあり方の検討として、課題チェックシートの作成(R2) ・課題チェックシートの改良、試行(R3) ・関連企業に対する技術開発状況に関するアンケート調査(R4) ・新技術の導入実績や新マニュアル・ガイドライン類の活用状況調査(R4) ・エネルギー分科会における技術開発動向整理表の整理(R5) ・課題解決技術支援ツール(試行版)の改良(R5) ・Geマッチング事業の開始(R5) ・文献調査等を踏まえた課題解決技術支援ツール(試行版)の更新(R6)	・R6は文献調査等を踏まえた課題解決技術支援ツール(試行版)の更新を行った。【再掲】 ・ロードマップに示した技術の開発及び導入の促進策について整理した。 ・下水道協会がGeマッチング事業(官民による共創事業)を実施した。	【継続実施】課題解決技術支援ツール(試行版)の改良・更新(必要に応じて操作性の向上、情報の更新等)【再掲】 【継続実施】調査結果を踏まえ、技術のニーズとシーズをよりマッチングさせるための方策について検討
	意見交換の場の提供に関する提案、連携として以下を実施 ・B-DASHガイドライン説明会、下水道展の展示、下水道キャラバン ・新技術が導入された好事例についてヒアリング調査(R6)	・下水道展の会場において、国土交通省下水道部・国総研にて、B-DASHガイドライン説明会を開催した(R6.8)。 ・R6は、PPPで事業実施中の3団体にヒアリング調査を行い、成果や課題等について整理した。	【継続実施】意見交換の場の提供に関する提案、連携の取り組み
柱④「国などの技術情報の共有(グローバルとローカルの架け橋(1))」	B-DASH技術の周知のため、以下を国土交通省下水道部・国総研にて実施、検討 ・普及展開状況調査、公表 ・B-DASH技術情報資料の作成、公表 ・B-DASHガイドラインのフォローアップ ・B-DASH技術処理場別一覧の作成、公表	・B-DASH技術の情報発信として左記の取組を適宜実施した。	【継続実施】B-DASH技術の情報発信

